

「子ども」「学生」へ約3トンの道産米を寄贈しました - 道産米消費拡大プロジェクト -

4月9日、連合北海道と道農民連盟による「食・みどり・水を守る道民の会」(会長 高倉司連合北海道副会長)は、道産米消費拡大運動の一環による、コロナ禍で困窮する子どもと学生に対する支援として、約3トンの道産米を寄贈しました。



この運動は「道産米消費拡大プロジェクト」と銘打ち、コロナ禍の拡大による、●外食需要の減少から深刻化する「コメ余り」の解消、●食料輸出国の輸出制限から、わが国の食料自給率の向上と食料安全保障の啓発、●困窮する子どもや学生に対する支援、を目的として取り組んだものです。

多くの連合北海道組合員、そして道農連の関係者にご購入いただき、11,42トン、4,4821,000円もの購入となりました。

今回、プロジェクトの目的の一つである「困窮する子どもや学生に対する支援」として、道産米消費拡大プロジェクトの購入金額からの寄付金と、更なる消費拡大のために組み予算の残額を活用して道産米を購入し、「こども食堂北海道ネットワークを通じて、子ども食堂へ1830kg」と「大学生協事業連合を通じて、大学生協へ1300kg」の合計3,130kg・総額1,471,100円を寄贈しました。

寄贈にあたり「コロナ禍により子どものみならず親の利用も増えている。出来るだけ食事を提供する日を増やしたいが、一番の悩みは食材の経費であり、中でも食材の中心であるお米をいただくのは本当にありがたい。」

「学生食堂で『食・みどり・水を守る道民の会から道産米をいただきました』と示し、ご飯を大盛り可・おかわり可とするなどし、お腹いっぱい食べることが出来ない学生に提供したい。」などの感謝の言葉をいただきました。

